

びったりつけ、五指の指頭を上にしし掌を内側にした右手を腕の肘を軸にして、宛う、踏切りの遮断機を降すように、左へ降す。

竿 人差指と親指で輪に（他の三指は開いたまま）した両手（左手の掌は内側向き、右手の掌は前向き）を胸の前で或間隔を置いて斜めに（左手は少し下に）竝らべて、同時に両手を区切るように少しづつ停止させながら離して行く。竿（竹）の節を表わす心得。

坂 「道」の手まねの両手の運動を斜め上に向ける。

境 「遮る」と同じ手まね。

逆さ (4) 上向けた左の掌の上に、右手の指頭を下にさした人差指と中指を一旦載せて（人の立つ姿）すぐに、人が逆立ちするよう二指の指頭を上に向け変えて再び左掌の上に乗せる。

(4) 右手の拳を手首のところを額につけ、

左手の拳を手首のところを後頭部につけてから、同時に両手をぐるり頭をめぐらして、その位置をとり変える。前後を逆さにすること。(4) 掌を下に向ける五指の指頭を集め合わせて物をつまむようにした左手。その下に少しの間隔を置いて掌を上向け五指の指頭を集め合わせた右手の位置をぐるりと上下に反転させる。上のものが下に、即ち逆さになること。

探す 人差指と親指で輪をつくった手（他の三指は上に伸ばしたまま）を眼の前近くに持って行き、その輪をぐるぐると上下左右に廻わす。眼を皿にして辺りを見廻すこと。

酒盛 人差指と親指で猪口を持った姿態にした両手を交互に前に出しては手前へ引き寄せ、（献盃）、酒を飲む真似。

詐欺 騙す——金銭——盗む。

作業 「仕事」と同じ手まね。

咲く 掌を上に向けた手の五指の指頭を集め合わせ手をぱっと花咲くように開く。

桜 掌を上向け五指の指頭を右にさした左手の手の首の上に、掌を下向け五指の指頭を左にさした右手の手の首を重ね、互の手の首を軸にして両手をねじって回転させ両手の位置が上下に変わる。

作家（文士） 掌を上向け五指の指頭を右にさし指の間を広く開いた左手の上に、これも掌を上向け五指の指頭を前方にさし指の間を広く開いた右手を重ね、両手の五指で原稿用紙の枘形をつくり、右手で字を書く身振。次に人（男性或い女性）を表わす。

作文 (4) 「作家」の手まねの「人」を省く。(5) 掌を内側に向け指頭を右にさした左手の親指と他の四指を曲げてコの字形をつくり（封筒の口）それへ掌を内側にした右手の五指を指頭からさし入れる。封筒に手紙を封

入する身振り。この手まねは、「手紙」を表わすものであるが、「作文」「綴方」「文章」にも通ずるようになった。

酒 人差指と親指で猪口を持った姿態にして飲む真似をして、掌を横に顎の下を撫で（或は軽く叩いて）その掌で額を一つ軽く叩たく。顎に掌をやるのは、「うまい味」を意味し、額を叩たくのは、ほろ酔いの人がよくする手の身振から来たものか。

避ける 拳にした両手の腕の肘を立て胸の前に併立させて肘ごと左胸脇の方に引き寄せると共に上身体を左に傾ける身をかわず身振である。

匙 人差指と親指の指頭をつけ合わせ匙の柄を持った心得で物をすくう真似をすればよい。

尺 尺を持った手つきで、三十センチ位の間隔をおいた両手を、左へそのまま、物の長